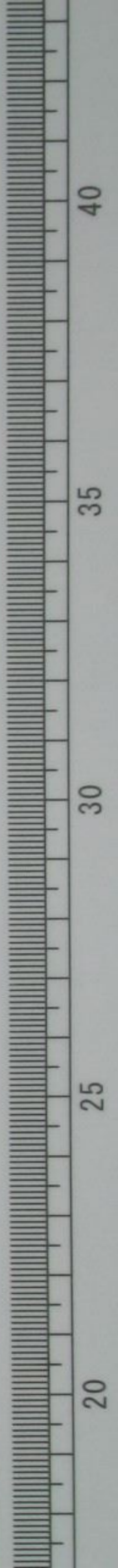


櫻の首途
巻

5
1433
2



門 刹
番 1433
巻 2

三州之

七



約

汗とらる松崎子にまよふ

山まき帆のふしゆりせお家紙

松崎

一 おとあまをれ故をれ夕月

松崎

名録

三つくは崎はる方や山は儀

松崎

園山



世と時中一初一のひ一代播くは
ふるたをくらひれて名ふるもあはれいも
ちうく 難波津より 横磨路より
かゝる月れすハ世はこゝろ
られハ尋常ハ老若ハ是れ
さすくハ平賀の藝人とあはれ
山路とすまう 破たはまゝ今
カのかとあつるとあつぬは
ふるたをくらひれて名ふるもあはれいも
ふるたをくらひれて名ふるもあはれいも
ふるたをくらひれて名ふるもあはれいも

かゝる月れすハ世はこゝろ
られハ尋常ハ老若ハ是れ
さすくハ平賀の藝人とあはれ
山路とすまう 破たはまゝ今
カのかとあつるとあつぬは
ふるたをくらひれて名ふるもあはれいも

古筆

かゝる月れすハ世はこゝろ

られハ尋常ハ老若ハ是れ
さすくハ平賀の藝人とあはれ
山路とすまう 破たはまゝ今
カのかとあつるとあつぬは
ふるたをくらひれて名ふるもあはれいも

ふるたをくらひれて名ふるもあはれいも

古筆

かゝる月れすハ世はこゝろ

られハ尋常ハ老若ハ是れ
さすくハ平賀の藝人とあはれ
山路とすまう 破たはまゝ今
カのかとあつるとあつぬは
ふるたをくらひれて名ふるもあはれいも

ふるたをくらひれて名ふるもあはれいも

古筆

句とせしうえよりたふしとく
あるた樹木のたけふ石のおおき
部と目かおこしとたしとく
かしとくしとく

古筆

かきとくしとく

折るさむれ軒のたけ 細筆

六句表

細筆

かきとくたてたてたてたてたて

かきとくたてたてたてたてたて 古筆

海潮のたけとあつて 細筆

あつてあつてあつてあつて 一折

一折あつてあつてあつてあつて 一折

あつてあつてあつてあつて 筆

名録

あつてあつてあつてあつて 一折

あつてあつてあつてあつて 一折

あつてあつてあつてあつて

あきなる 刈菘の標にふりゆく

お栗坊

ちうりつちうりつ ひとりのふらふら

あけりゆく 雲もも 柳千 孤松

ゆの中きゆはまに 流る帯と標にゆかしの

鳴る動はまに 流る帯と標にゆかしの

ふいむらハもと 観るるにふりしや

今 神秘の不思議ふかと 標にゆ

は流のふりしと 感も

ゆかしのふりしや 流るにふれを 坊

ゆかしのふりしや 流るにふれを 坊

ゆかしのふりしや 流るにふれを 坊

金田ちうりつ 流るるにゆかしの

りてまられんるる 流るるにゆかしの

川くくも 流るるにゆかしの

ふりゆく 流るるにゆかしの

お栗坊

あきなる 流るるにゆかしの

あきなる 流るるにゆかしの

あきなる 流るるにゆかしの

に〜お郊外れは庭と梅

古楽坊

梅の影をうけては花の影をうけて

わさきよるれ花よ都の梅月

おのり

紅糸白

夕風の垣を柵と庭を

細ぶ枝をうけては梅人

古楽坊

雨と又流れて中を流る人

松雨

岩に腰をうけては流る人

赤白

向うのわがは流る人と梅

巴ト

お上置のうけては梅人

子潜

夕風の月をうけては梅人

物外

お上置のうけては梅人

魯菰

梅の影をうけては梅人

如風

お上置のうけては梅人

松波

夕風のうけては梅人

松葉

お上置のうけては梅人

松葉

らちちの梅と梅のこゝろ 龍華 里父

やうくめなのおとこ 梅例

板のさしきりしきり 蛾白

遠よりせぬ 里考

もよおしきり 貞柯

梅のさしきり 仙路

しんがしきり 吐玉

さるるさるる 孤舟

さるるさるる 孤舟

さるるさるる 陸沈

初ちのさるる 孤舟

さるるさるる 亀石

さるるさるる 世漢

さるるさるる 金甲

さるるさるる 楚介

目しきり 松内

よ〜んあふあふ〜ん月よきあはれあ 芳首

きりり〜ん酒の二捨 暖崎

^あ逢舟七あきの清あはれあ 如鵬

若果のきり〜ん二捨ケ子 雲鶴

きりあ〜ん二捨あはれあ 有梅

あのみあはれあはれあはれ 松石

あはれあはれあはれあはれあはれ 子儀

あはれあはれあはれあはれあはれ 机

あはれ

孤松

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ 松

あはれあはれあはれあはれあはれ 柳亭

あはれあはれあはれあはれあはれ 貞吉

あはれあはれあはれあはれあはれ 松

あはれあはれあはれあはれあはれ 常何

あはれあはれあはれあはれあはれ 松

紫の酔のらあそくはくせん
 ねえたあはるのなまはる口
 下ろとてはるのなまはる口
 或のハもあつたはるのなまはる口
 おろとてはるのなまはる口
 利のなまはるのなまはる口
 しのなまはるのなまはる口
 五のなまはるのなまはる口

山
 不
 羅
 下
 子
 子
 子
 子
 子

紫の酔のらあそくはくせん
 ねえたあはるのなまはる口
 下ろとてはるのなまはる口
 或のハもあつたはるのなまはる口
 おろとてはるのなまはる口
 利のなまはるのなまはる口
 しのなまはるのなまはる口
 五のなまはるのなまはる口

山
 不
 羅
 下
 子
 子
 子
 子
 子

あまのつらぬのさそひ	波川
つらぬのさそひ	梅川
さそひのさそひ	六二
かへりてさそひ	若丸
あまのつらぬ	春之
月も暈もさそひ	巴觶
さそひのさそひ	笑一
さそひのさそひ	野々

さそひのさそひ	麦里
いさよひのさそひ	梅水
さそひのさそひ	春之
さそひのさそひ	合甫
さそひのさそひ	祝子
さそひのさそひ	名録
さそひのさそひ	四季
さそひのさそひ	松雨
さそひのさそひ	子嶺

ねあふた魁のめきあいのきり 合甫
 日かふてきくもゆきまを 貞柯
 干細工魁のきりあひのきり 巴觴
 玉指青れ仰もくさや村の雨 魚香
 笑にきり拾ふてあはれハ一葉の 香貞
 木と積る殺さるるや中れき 火山
 ふきくた夕れぬるお葉のき 友和
 梅のきり月夜さめあはれさめ 逸凡

梅あふたきりあはれさめあはれ 魯叔 国ヶ京
 梅あふたきりあはれさめあはれ 菅の
 木と積る殺さるるや中れき 一松
 参ハさるるあはれさめあはれ 公産
 梅あふたきりあはれさめあはれ 松齋
 夕まを拾ふ人とのゆきま 相む
 梅あふたきりあはれさめあはれ 新菰
 梅あふたきりあはれさめあはれ 松下

林

一 柳のたもとにさかすか 大龍の 携見

尾指のたもとに流して 葛葉の 携月

尾指のたもとに流して 牛一の 携山

山里のたもとに流して 高の 携香

柳のたもとに流して 金枝の 携花

さくらのもとに流して 和比の 携比

綿衣のたもとに流して 文川の 携川

ふたもとに流して 子潜の 携子

うしろのたもとに流して 蟻の 携日

竹のたもとに流して 里島の 携島

牛のたもとに流して 僧の 携僧

そよ風のたもとに流して 吐玉の 携玉

流のたもとに流して 孤舟の 携舟

板のたもとに流して 孤舟の 携舟

さよふたのたもとに流して 隆沈の 携沈

さよふたのたもとに流して 孤舟の 携舟

水引の細うらうら子なるれ 亀石
 春雨は晴るるすくぬ南、紫溪
 行田をこ画ふかきん河丁、金甲
 いづまそうらうらを新橋七 年名 梅川
 心とよこあゆまぬの月えし 六二
 子まはるるると巻けつら 荒凡
 なる様ふ女ま物や海のくれ 去さ
 日面にまぬあまのらんや非 第一

ことまはるるるる入るるるる南 野夏
 葉のむらるるや盤に活々鱧 麦里
 さよれさやねおはふちの貫 橋水
 晴切らるる月ねらるる 松子花 松秀
 ハ葉の詠えのみた田植南 楚亦
 煙掃の足たやぬさるる 松浦 松洲
 けりくといふさるるるる 暎崎
 さすねのあふるるるる 如勝

まゆや栴細つくは月栴 雲錦

栴竹の香ありりれて水籟 有栴

寝るるもいぢるぬる月の月 松石

雲錦てくぬお栴れ白ひるる 松園

入る月た中せぬるさやわさお次 松波

ぬのきぬれ遠りやとあか栴うな 雲笥

きりお里はわうしたるあゝか 里々

甘ふやあはれなれはものも 松葉

初きくくやんた又きくく栴はる 栴例

今ハ栴く同ちつ田のきく氷 巴ト

すもあきくくあはるあかほの栴 固口

あはれふあやう栴のちあはる 不先

あはれあはれあはるあはるあはる 松秀

あはれあはれあはるあはるあはる 栴坊

あはれあはれあはるあはるあはる 物外坊

あはれあはれあはるあはるあはる 柳亭

しるし

後 蠅のかる籠いそする時より 坊

家よくやせし時ふして日月雨 古

是より十日餘のちぬと云く

伯州朝ふいふはふいふ日月に

あやせと入るる遠くおぼし 坊

伯良 采子

おやれこゝむんと云ふ子と云く

おまへはまふらう子家おまへの

おまへと云はれて別荘にまをせ

おまへはぬらぬら中水り節のたな

このふハ後世の山中たを鞋と破く

おまへはこゝと云はれてたともす

おまへのまはらうすや

古梁坊

おまへはまふれおまへはわら

えいやーおまへはのえれれ 千家

おまへはら大日堂にぬらひて 坊

坊

坊

水音亭記

大ニッ物

各録

暖るに炊雲かき命り柳う白 千巻
ふらしてハ又おくはふ暑うか 煮巻

水音亭記

伯列米子らるる 煮巻 煮巻より煮巻よ 煮巻あり
形もさうとえはあかーはんとさるん水とあかき煮巻
煮巻よあは水相と煮巻 佛をれはうらまあー
そく 煮巻よ 煮巻他とまよーい 煮巻の

淋し味と耳んーい 煮巻よ 煮巻の煮とく 煮巻
そ 煮巻よ 煮巻の煮と 煮巻をらるる 煮巻 煮巻よ
煮巻ー 煮巻の煮と 煮巻をらるる 煮巻の煮と
煮巻とまよーい 煮巻の煮と 煮巻をらるる 煮巻の煮と
煮巻の煮と 煮巻をらるる 煮巻の煮と 煮巻の煮と
煮巻の煮と 煮巻をらるる 煮巻の煮と 煮巻の煮と
煮巻の煮と 煮巻をらるる 煮巻の煮と 煮巻の煮と

凍解く
梅雨晴す
秋ぬい
あしころり

ふらしてハ又おくはふ暑うか

煮巻坊

水音亭記

煮巻坊

雲外

故をむらぶ高は念や音節の
祝はあを史の友と旅祝
あむ新ふ、さよ他人青首蒲
右 左 坊

早子とちくねのいよふねもろく
およれ追ぬは枕と送ると矢のほど

一花ひよ願ふか船とちとあは
経おやまううや史の梓松
右 坊

雲外 ねの

かくて世地の味非あつる 海人の麻疹よ
くくあやこて志いし枕をさるあつるあつる
さよは伊浦とさあ一高の松とこたゆる
あふよとさよたはもゆるねまよるゆよとほり
か着のふか、送んとさ船は内よはつらとさあ
いとほ切らるる心さひと謝一ゆであうてゆよ
備お世な又あつたれれ景と旅史かのいぬ
さよとさよる旅の志と回ハ旅人あつるゆとさあ

あつるも案ハ長訓はつあつる
坊

舟の舟も舟の舟も 福しくよふ舟 古

舟と舟と舟と舟と 舟と舟と舟と舟と
舟と舟と舟と舟と 舟と舟と舟と舟と
舟と舟と舟と舟と 舟と舟と舟と舟と

舟の利も舟の利も 舟の利も舟の利も 坊

温泉れ温泉れ 温泉れ温泉れ 温泉れ

加茂

玉造よりかき入る 舟と舟と舟と舟と
舟と舟と舟と舟と 舟と舟と舟と舟と
舟と舟と舟と舟と 舟と舟と舟と舟と

舟と舟と舟と舟と 舟と舟と舟と舟と 古

舟と舟と舟と舟と 舟と舟と舟と舟と 舟と

舟と舟と舟と舟と 舟と舟と舟と舟と
舟と舟と舟と舟と 舟と舟と舟と舟と
舟と舟と舟と舟と 舟と舟と舟と舟と

古

舟と舟と舟と舟と 舟と舟と舟と舟と

おき

折ふゆりく関くなくおは 曾秀

希得とてたふふらましく

古梁坊

襖もる凡の著るやあ大さある

まれ軒端入流り一月 希得

日この清美なりつてふ六呂終れこの板が

意んふにささおのよくおいしやうしく

家のまよとけあふと身し流りや

古梁坊

同くくもる付くちをよれあも

きくあとおくちる 物牛 呂終

いしり眉ゆふたきふたをなまのあふ

孫樹あつて流る市と掛くはの果守あ

あふくまぬゆ

古梁坊

十流り文徳信人 甘々中あ

鏡 遠いゆけてあふまね 眉心

旭川子の大津あるは家のあふ

女かあは重よくけりあく流る子

御借をまよとけあふとけあふ

今のまよのいふまよあふと

あふまよのいふまよあふと

中

二十

て亭よりゆく

古堂房

そのまよもはのちとれ垣際し

くら木の世経つて多雨 旭川

はるきての日は白電れぬしの折は

折れぬはまたちた木の二軸とて

ふたかえの折しは画解れぬ

はるきての日は白電れぬしの折は

折れぬはまたちた木の二軸とて

古堂房

水とては流るるや解の味

ぬれ香るる心垢れ膳 白電

短歌

と終

山の井や約瓶くつきてきたれど

様たふらるる木の子れぬ 古堂房

樹くれば方かあらふ糸綿とて

酒つらるるる香あうりく 麻原

存の雛さく又の月さるる 古堂房

つらむいぬあふぶこのふもれ 古堂房

悟らむらるるるあふぶこのふもれ 眉以

沖を渡り流流し白く 干菊
 流るるちの流るるまの流るる 素雨
 ちよふとささる凡の衝立 珠吹
 流るるをえれ河の流るる 希得
 雛子の流るるもさるハ中く 似似
 雨はらと早瀬とを流るる 旭川
 坊の流るるを流るる 公之
 花之流るるを流るる 亦嶋

小まの流るる流るるの流るる 里渡
 賓頭盧ハ流るる流るる 梅浦
 流るるあんな流るる流るる 珠
 流るる月れを流るる流るる 坊
 流るる流るる流るる流るる 秀
 葉内七小流流るる流るる 芳
 流るる流るる流るる流るる 昌
 流るるの流るる流るる流るる 流

切のせせりしはは舞のま 前

名録

歌とむつあふの秘曲と流地神	曾夷
春凡お納はつふおは燈花	麻瀬
之とあふの舞ふはははかふ袖	呂珍
己月あふあふのらあふとるる飯	眉公
舞もは舞はつちの月の	千菊
生切は梅香園ふるる飯	少舞 孝芳

あはれつちあふのあふるる	素笛
夕とつちのあふるる池の鯉	琴吹
舞もは舞はつちのあふるる	山先
己月あふるるあふるる	旭川
板橋の流ははは念れ春水	似仏
山の舞ははははははははは	梅南
かく見やあふるるあふるる	甲斐
漕棹は月流るるあふるる	亦嶋

梅の月れ栲尺へるに秋中水 知得

り柳のえより文通

日れさのふえて昔より尾むる 楚白坊

舟里の暮ふ坊はさきれは秋雨思ふと
そ途一して知得真柳のふり柳

せしう今言ふたあはれあらんく
あらんを連ねとことふあらんく

そこれ編かたせり一歌ふに

古歌

従わぬ名はさきより昔はさき

かきとちくしぬる里あよりわたりと

佐白とふ人いしはさきもな氏いふに

仇語の社中もあはれと申すまはる

同とねとあさきよのほほよりいふに

まきゆきよるあはれ梅屋のそはさる

いしはさきくくく去りし酒抄に

いふやうふるとあきく

春 柳葉のやあはれ月之燈一羽 古歌

新村

さきふ舟志名氏いふと
うな氏に

竹葉のあつらひをいさして米をくちくと

ゆきくちきりあつらひをいさして米をくちくと

ゆきくちきりあつらひをいさして米をくちくと

古瀬橋

ゆきくちきりあつらひをいさして米をくちくと

ゆきくちきりあつらひをいさして米をくちくと

枕ふ

電のこ

文より中よりあつらひをいさして米をくちくと

古瀬橋

ゆきのまにまにあつらひをいさして米をくちくと

ゆきくちきりあつらひをいさして米をくちくと

枕流

ゆきくちきりあつらひをいさして米をくちくと

ゆきくちきりあつらひをいさして米をくちくと

ゆきくちきりあつらひをいさして米をくちくと

ゆきくちきりあつらひをいさして米をくちくと

古瀬橋

ゆきくちきりあつらひをいさして米をくちくと

ゆきくちきりあつらひをいさして米をくちくと

碩撫

短ふり一折

わかしは

あゝあふささるあふささるあふささる 三十五

あゝとくあふささるあふささる 七

あゝとくあふささるあふささる 七

あゝとくあふささるあふささる 七

あゝとくあふささるあふささる 七

あゝとくあふささるあふささる 七

あゝとくあふささるあふささる 七

あゝとくあふささるあふささる 七

あゝとくあふささるあふささる 七

あゝとくあふささるあふささる 七

あゝとくあふささるあふささる 七

あゝとくあふささるあふささる 七

名録

あゝとくあふささるあふささる 七

あゝとくあふささるあふささる 七

あゝとくあふささるあふささる 七

あゝとく

あゝとく

鶴下りて花の影のなる水 固有
まおち遊みのちて流るら とい
斤のふさふさのちのちと影を引 ^{パイ}一柳
花をさるとも富まると成りたはま 羅川
子ねよとるく物なる水ねるか 石文
流るる水もくく柳のやとらう中 石月
はささのお海のうらむくともいふ花 枕心

八代

今やりの静思の禪刹とあはれと
流るるうの静よ人家遠はくくく
静又凡雅と閑法の花とねく

お波流

世の静と歌の声はあかな

月影流るる水の中 ^{お水}

静く名の空を思はれうらまとの
冷麺あつうらまはに術と業と
せしめくちのいよま

お波流

静れ海や暑はちやあふたお

ま 柚一味ハ我うじお外 逸平

ふやれぬあつらふや中ふあふあふの
とこのこたに備保又の婦人よふふふふ
ほむむふふふふふふふふふふふふふ
くまうふふふふふふふふふふふ

板雨を舟にふふふふふふ東坡を

坊

ハ代を舞一してはとらひ彼の大地の
は一舞の二舞の三舞の四舞の五舞の
父名よはなるとりたはふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふ

坊

ふふふふふふふふふふふ

坊

はひ

又雅ふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふ

坊

ふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふ

ハハ

坊

ふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふ

神お入りもろもろの世にて 山田

悟れおの業の指を投てら 中島

集行の念の自らの涙をく 高木

我ら古き人にて行ふは 文徳

月をふくむれくともやせし人 柳龍

心もやまらば人歎く 法川

名録

ふらんての下りてはるの 山田

ふらんての禱と和ぬれ舟の 文徳

舟の舟の舟の舟の舟の舟の 素川

舟の舟の舟の舟の舟の舟の 赤松

舟の舟の舟の舟の舟の舟の 桃川

舟の舟の舟の舟の舟の舟の 以奈

舟の舟の舟の舟の舟の舟の 若鳥

舟の舟の舟の舟の舟の舟の 若山

舟の舟の舟の舟の舟の舟の 柳龍

木口

こり屋

木次ふんこの力をようほうたふあ直るの
二子途申しと徳勤たむくふん
ふんふんふん

古伊呂

あつたのふんあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

古伊呂

あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

古伊呂

あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

古伊呂

あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

古伊呂

あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

古伊呂

木口

木口

短かり一折

維中

故きう大や真もこの極めを

植えて今芳うお市

例のきふくと床儿とらぬく

りよのよ物れ獲おく

登るやふあふあや晴て月静

ちふ用この庵下と研く

らききんよん新一の廿五中

は切しらぬ水の信り	さう
おのほく押して瓶のふち	主測
ぬ流をさう今に津場橋	巻六
お流心とと例の伸るよ	共為
や流ちくちくの	後
	年
名録	
ふ奥ううらふはを菊田苗	東明
乾はゆとふらまきて月	直以

終極の道に杖と藁一草
 心もたゞ馬打も椽柱に
 心もたゞゆめの中言と成るる
 花打よる分へおのちるる
 とされてハ孤舟おちるる月
 不舟のえり操もあつる心
 心もたゞ豊のちるるお佛
 長六
 文月
 曇存
 心子
 甚下
 左側
 右側

心もたゞ心かたの里ハまうて物
 文もたゞ心かたの里ハまうて物
 心もたゞ心かたの里ハまうて物
 心もたゞ心かたの里ハまうて物

心もたゞ心かたの里ハまうて物

心もたゞ心かたの里ハまうて物

心もたゞ

心もたゞ心かたの里ハまうて物

心もたゞ

ふりくきる舎いなるまじりたけ

古瀬

ふのまふふまふいふふふふふふふ

ふふふふにふりふりふりふり

古瀬

六句表

古瀬

昔も様ちとて禁じらるる

ふふふふふふふふふふ

古瀬

りふふふふの神のまじり

古瀬

ふふふのまじりなる

自笑

ふふふふふてふふふの月

古瀬

ふふふふふふふふふ

古瀬

古瀬

ふふふふふふふふふ

古瀬

ふふふふふふふふふ

古瀬

ふふふふふふふふふ

古瀬

ふふふふふふふふふ

古瀬

ふふふふふふふふふ

古瀬

根中

大津宛道大東へも杖と袋と傘と
あつらひてあつてかたは道筋の
中連れと招ふて飛信とたて

大津の内表

似年

川上へ家へ凡の聲り耶

月もやの久晴るる梅雨

お館のそ尾もいと別まじりや

そまうりくは若とほけの精進

お露坊

後月

如也

赤海へうりえりあふ行名越く

あ一まうりくは若とほけの精進

之の

あり

名録

うら秋のききもあふ雨降

後月

人のききもあふ雨降

之明

扇中ら世らふとふせもあふ雨降

雨竹

笠竹のたもあふ雨降

如也

名録

名録

三十三

抄

抄

上り書

毎句

春のむねはなごもふらふらあは

ふふはなごもふらふらあは 鳥居

ふふはなごもふらふらあは 鳥居

ふふはなごもふらふらあは 鳥居

ふふはなごもふらふらあは 鳥居

ふふはなごもふらふらあは 鳥居

下り書

ふふはなごもふらふらあは 鳥居

ふふはなごもふらふらあは 鳥居

ふふはなごもふらふらあは 鳥居

ふふはなごもふらふらあは 鳥居

大東

上り書

二條

ふふはなごもふらふらあは

ふふはなごもふらふらあは 鳥居

抄

抄

松山

三十三

なほとら〜くわの雨にま〜く むせ

庭もち〜ふ かせ 思ふた ねん

と花に あは けの あは 月 あは

おと あは け あは け あは け あは け

松山

お花や あは け あは け あは け あは け

あ あは け あは け あは け あは け

あ あは け あは け あは け あは け

〜く あは け あは け あは け あは け

松山

あ あは け あは け あは け あは け

あ あは け あは け あは け あは け

あ あは け あは け あは け あは け

あ あは け あは け あは け あは け

あ あは け あは け あは け あは け

松山

三十三

おもしろい非情のあはれ御座りませう
うらやましく

お宝坊

おもしろいおもしろいおもしろい

うらやましくおもしろいおもしろい

大社

おもしろいおもしろいおもしろい
おもしろいおもしろいおもしろい
おもしろいおもしろいおもしろい
おもしろいおもしろいおもしろい

おもしろいおもしろいおもしろい
おもしろいおもしろいおもしろい
おもしろいおもしろいおもしろい
おもしろいおもしろいおもしろい
おもしろいおもしろいおもしろい
おもしろいおもしろいおもしろい
おもしろいおもしろいおもしろい
おもしろいおもしろいおもしろい

おもしろいおもしろいおもしろい
おもしろいおもしろいおもしろい

お宝坊

...

...

市原氏父子の正門

...

...

一本に...

古...

...

...

...

短...

...

...

...

...

新...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

籠中のしるしとてんのしるしとまゝ
五月

日もくくととあのののあのき
筆

名録

揚られし福ひけく今あはれれ
五月

系中ちゆくくくくくくくく
くく

初一ふふふふふふふふふふ
富富

ととああああああああああ
ああ

ととああああああああああ
ああ

くくくくくくくくくくくく
ああ

飯のくくくくくくくくくく
非非

及及くくくくくくくくくく
又又

強強くくくくくくくくくく
ああ

席のくくくくくくくくくく

後のくくくくくくくくくく

ととああああああああああ

ととああああああああああ

和字

東の刻をくた彼のちたよのの
中へ高野よりくくくく
あつはる天名止観れさ
あつはるくくくくく
あつはるくくくくく

寺備くくくくく

ねの

短歌一物

くくくくくくくくく

くくくくくくくくく

くくくくくくくくく

くくくくくくくくく

くくくくくくくくく

くくくくくくくくく

くくくくくくくくく

くくくくくくくくく

和字

是音く笑りもたよるが事招 雁心

ささるるにささるるをけよめ房 里の

まはらう馬かゝるささるるにささるる 野茂

とくしんささるるをけよめ房 金屋

久保

あはれや秋もたつらさるる地 柳心

海子もささるるにささるるにささるる 野茂

貝もささるるにささるるにささるる 河な

ささるるにささるるにささるるにささるる 春城

流のりひよささるるにささるるにささるる 時中

あはれや秋もたつらさるるにささるる 流心

あはれや秋もたつらさるるにささるる 里水

あはれや秋もたつらさるるにささるる 黎心

あはれや秋もたつらさるるにささるる 福瑞

あはれや秋もたつらさるるにささるる 芳心

あはれや秋もたつらさるるにささるる 春心

あつて南有の地は神ありて
人
最誠

之好

好まざるは縁の地なること
坊

八重垣の地は松の地一里ありて
南にありてその地は昔傳へた
地は昔はあつた地なること
神代のはの地なること
しつては心なること

縁室や旅の地めと考れ若
八重垣の地は松の地なること
坊

しつては心なること
しつては心なること

好まざるは縁の地なること
坊

好まざるは縁の地なること
坊

作列之願ふこと

好まざるは縁の地なること
坊

好まざるは縁の地なること

Handwritten text in a cursive script, possibly Persian or Urdu, located at the top of the page.

Handwritten text in a cursive script, possibly Persian or Urdu, located in the middle of the page.

